

# 放射性液体廃棄物等の評価対象核種選定 に関する解析評価と実測値の比較について

**TEPCO**

---

2016年6月23日

東京電力ホールディングス株式会社

# 1. 滞留水中の放射性核種濃度の解析評価値と実測値の比較

■ 評価対象核種選定の根拠としている建屋滞留水中の放射能核種組成は解析によって評価しているが、その解析結果を次の通り比較した。

- 建屋滞留水中の放射性核種組成は、燃料中の核分裂生成物解析コード(ORIGEN)によって事故直前の炉心インベントリを求め、シビアアクシデント解析コード(MAAP)によって各核種の滞留水中への移行率を求め、滞留水中の濃度比を得る。この際、溶解性の高いCs-137の解析値と実測値の比を求め、その他核種にも同様の比を掛け合わせることで、その他核種の濃度を求めている。(図1)
- 上で得た値に、事故からの経過時間に応じた各核種の崩壊による減衰を考慮して、評価時点での核種濃度を求めている。
- 事故後1ヶ月後に測定した2号機滞留水の核種分析において、Cs-137の他、6核種が検出※されたことから、この6核種について実測値と解析評価値を比較した。
- この結果、解析評価値／実測値の比は1～3の範囲であり、概ね一致していることを確認した。

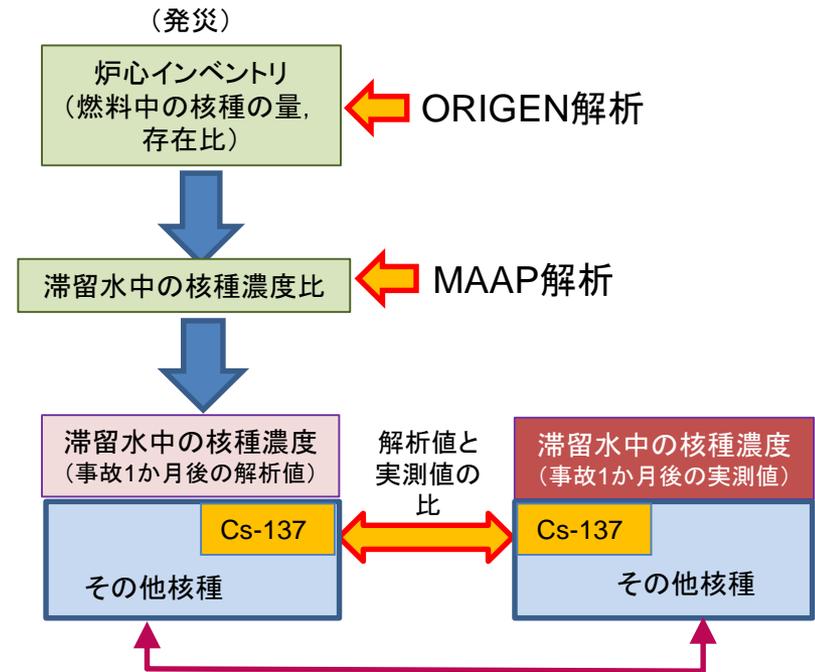


図1 滞留水中の放射性核種濃度の評価イメージ

※ Sr-89, Sr-90, I-131, Cs-134, Ba-140, La-140